

## 平成 30 年度第 2 回苫小牧市福祉のまちづくり推進会議 議事録

■ 日 時：平成 31 年 3 月 22 日(金) 午後 13 時 00 分から 14 時 30 分まで

■ 場 所：苫小牧市福祉ふれあいセンター1階 研修室

### ■ 出席者：11名

<委員>

栗山 昌樹（議長）

荒物屋 貢一 江尾 清 大久保 佳美 篠原 一弘 高橋 美穂

長田 昌聡 松原 敏行 水口 哲二 横山 武三 横山 未世

<事務局>

山田障がい福祉課長 稲場課長補佐 長谷部主査 以上 3 名

### ■ 欠席者：4名

<委員>

伊藤 康博 荻野 雅治 水内 雅史 渡邊 春子

(敬称略)

### ■ 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 報 告

- ・ 苫小牧市福祉のまちづくり表彰について
- ・ 公共施設のバリアフリー化事業について
- ・ 苫小牧市あいサポート運動について

(2) 討 議 (テーマ：震 災)

(3) そ の 他

3 閉 会

■ 議事録：(2) 討議についてのみ次項以降に掲載

【議事 (2) 討議】 ※ 約 60 分間

■ 議長：栗山委員（苫小牧工業高等専門学校）

○

冒頭に事務局から討議の趣旨について説明をお願いしたい。

■ 説明者：山田課長（障がい福祉課）

○ 北海道胆振東部地震があったため討議のテーマとして設定した。

○ 障がい福祉課も当事者宅への家庭訪問などの対応を行った。

○ 福祉トイレカー『とまレット』による厚真町への広域支援も行い、被災者へのトイレの支援などにあたった。

○ 本日の討議により震災対策だけに限らず、福祉のまちづくりを進める上で委員各位の意見を伺いたい。

■ 議長：栗山委員（苫小牧工業高等専門学校）

○ 各委員、1人につき3分程度の発言をお願いします。

■ 江尾委員（苫小牧視覚障がい者福祉協会）

○ 発災時、広報車は回っていたのかを聞きたい。

○ 川や海の近くの避難所開設があったのかを聞きたい。

■ 事務局：長谷部主査（障がい福祉課）

○ 広報車は情報提供のために回っていた。ただし、台数が少ない問題や走るスピードが速く聞き取れないなどの課題はあった模様。

- 避難所は、ハザードマップに基づき設定されている。

■ 事務局：山田課長（障がい福祉課）

- 避難所はほとんどが小中学校である。
- 福祉避難所も開設されたが、これは2次的なもので、通常の避難所では生活が困難な方が対象となる。
- 仮に津波の不安がある場合には、2、3か所ある福祉避難所のうち、海などから離れた場所が選ばれる形になる。

■ 江尾委員（苫小牧視覚障がい者福祉協会）

- 海の近い苫小牧の立地では、津波による被害が甚大だと予想できるので避難場所を考えて欲しい。

■ 事務局：山田課長（障がい福祉課）

- 対策をする部署があるので、情報共有を図る。
- まちかどミーティングでも、避難所、広報車、防災ラジオなど意見があるので、それに基づき環境を整えたい。

■ 横山(武)委員（苫小牧肢体障がい者福祉協会）

- 防災ラジオについて、関係のない時間に雑音が入ることがある。  
解消方法はないものか。

■ 事務局：山田課長（障がい福祉課）

- 担当部署に確認する。

## ■ 荒物屋委員（苫小牧市体育協会）

- 苫小牧は災害に特色がある。最近では津波が話題になるが、以前は樽前山の噴火が一番の心配だった。
- 自分が東日本大震災の時に半年後に宮古に訪問した時に、(事後処理の)担当者に聞いた話がある。
- それは、何かあった場合に、『家族が揃っていなくてもまずは逃げること大事』だと代々家族に伝え約束しているということ。
- 災害が起こった時に、自分や、家族、または地域で何ができるのか、何を行うのか、などを約束事をしていれば今後の役に立つのではないかと考える。

## ■ 大久保委員（公募）

- 広報車について、回っているのを確認できたが聞き取れなかった。  
もったいないと感じた。
- 防災ラジオについて、福祉施設には設置できるようにしてもらいたい。

## ■ 篠原委員（苫小牧市こども通園センターおおぞら園）

- 自分は障がい者やと発達障がいの児童が利用施設に従事している。
- 発災時、電話が通じないため、利用者全員の状況確認ができなかった。
- 幼稚園や保育園の通園児童は園側での確認もあると思うが、在宅の児童などはおおぞら園が確認できる体制をとらなくてはならないと感じた。

### ■ 高橋委員（苫小牧市社会福祉施設連絡協議会）

- 自分は高齢者施設の施設長をしており、同時に、小学生の子供を抱えている。
- 発災時、主人も不在で『子供を置いて職場に行くべきなのか、避難をさせた方がいいのか』大変悩んだが、結局は職場に子供を連れて行った。
- 災害の際に、働く母親や子供の避難について、普段から町内ぐるみでコミュニケーションなどにより共有するような機会があったらいいと考える。

### ■ 長田委員（苫小牧市老人クラブ連合会）

- 震災後の検討や改善について、成果があったことはできるだけ早く市民に知らせてもらいたい。仮にこの会議から帰るときに地震が発生するかも知れないのだから。

### ■ 松原委員（苫小牧市文化団体協議会）

- 文化会の仕事をしているが、震災の関係で、会場の建物被害により中止の催事があった。建物について、老朽化対策など結論を出した方がよいのでは。
- 以前港湾関係に従事していた経験上、港湾については BCP という危機管理対策がある。この BCP を各職場単位でも作成し、『今やるべきこと、やれることは何か』を整理することは非常に大切だと思う。
- 私自身、この震災で知り合いが数名亡くなっている。あの日、普段は 2 階で寝るところをたまたま 1 階で寝ていたため犠牲になった。この出来事もこの

ような機会だからこそよく考えたい。

#### ■ 水口委員（苫小牧市ボランティア連絡協議会）

- この度、苫小牧市が防災無線スピーカーを設置することに決まったが、良い取り組みだと思う。しかし、今の家は遮音性も高いなどの課題もある。
- ある地域ではコミュニティ FM の活用もしているようなのでそのような取組も有効ではないか。
- 避難所と町内会の連携に課題があると感じる。具体的には、私は町内会の立場だが、手伝う意思はあるが何をしたらいいか分からなかった。
- 高齢者の避難に関する知識にも課題があるので、町内会でも支援していきたい。

#### ■ 横山(未)委員（苫小牧市法人保育園協議会）

- 勤務している保育園は電気に依存した給水設備だったので、断水の状況だった。そのため保育士が水を汲み給食室まで運んで給食を作った。
- 震災時、情報の錯綜が見られた。断水になるだとか、より大きな地震が発生するだとか。正しい情報が得られる環境の必要性を感じた。

#### ■ 議長：栗山委員（苫小牧工業高等専門学校）

- 発災時は、函館に出張しており情報が乏しかった。各委員からもあったが、情報の在り方が非常に重要だと思う。
- 十数年前の神戸の震災後、2週間ほど神戸にいた経験がある。そこでの一番の問題は下水だった。トイレがなく、新聞紙などを活用した簡易なものでの対応がとられていた。また、大量の廃棄物の発生など衛生問題が大きか

った。

- 広報車、防災ラジオ、子供の受け入れなど、問題や課題はたくさんある。  
また、発災後の改善点に関する市民へのフィードバックや、事前の危機管理体制などの話が出た。まとめていきたいと思うが、発言をお願いしたい。

#### ■ 事務局：長谷部主査（障がい福祉課）

- 福祉トイレカーの厚真町への配備について従事する経験をした。そこで感じたのは断水の問題。苫小牧市と比べ、厚真町は水がなく、水の有無が生活に与える影響の大きさを知った。
- 福祉トイレカーは24時間体制で運営した。夜中の時間帯には利用者は乏しかったが、『設置されていると分かるだけで、安心感が違う。安心して眠れる』との声も多かった。

#### ■ 荒物屋委員（苫小牧市体育協会）

- 色々な災害が前触れなしに起きるとすれば、改めて自分ができることを考える必要があると思った。
- また、自分でできることが制限される方もおり、その方々への支援についても考えておく必要がある。
- 『個人単位で、自らが有事に備えた考えを持つ』ということを市民に啓発し、発信していくべきだと思う。

#### ■ 水口委員（苫小牧市ボランティア連絡協議会）

- 苫小牧は災害があまり起きないという前提があり、住民に防災意識が浸透

しない傾向にある。そのためか、訓練や対策などに参加する顔ぶれは固定化されていて、周囲に波及されない。

- 町内会で高齢者の数などを把握し、リスト化しマークする取組を行っている。ただ、そのリストをどのように活用するかまでは決まっていない。
- 高齢者に関する問題は、町内会レベルのものではなく、もっと広い地域の問題であり、地域の人が互いに助け合う体制がなければ立ち行かない。

#### ■ 松原委員（苫小牧市文化団体協議会）

- 災害時にどのように行動するかは非常に大事。
- 火災に対応した訓練はたくさんあるが、地震に特化したものは多くないと感じる。
- この推進会議のように、町内会や福祉関係の団体等が合同で避難訓練をやるような方法も一つではないか。避難訓練は『あくまで訓練』という意識で行われがちだが、様々な団体が連携し共同実施する避難訓練は緊張感などがあり有効ではないか。

#### ■ 議長：栗山委員（苫小牧工業高等専門学校）

- 苫小牧市の市民自治会議でも災害についての話が色々出ており、地域では町内会がベースとなり議論をしている。ただ、なかなか進まない。
- 苫小牧市の地域性として、市民の意識に『少しくらいの地震なら大丈夫』といった楽観的バイアスがかかる傾向にある。
- 災害には事前事後の活動があり、対策として事前にどのような活動をする



のか、事後にどのように復旧を行うのか大事になる。

- 町内会についても加入率の低迷など、近所同士の疎遠があり、自助共助の精神を浸透させるには課題があるが、この部分の活性化を図る必要性はある。

#### ■ 江尾委員（苫小牧視覚障がい者福祉協会）

- 広報車による情報発信は、聞こえないケースが多いため意味をなさないのではないか。
- 今回のように電気がダメになれば、テレビなどは使えないので、それを踏まえて、安価かつ効果的に情報伝達ができる方法はないものか。

#### ■ 水口委員（苫小牧市ボランティア連絡協議会）

- 情報発信には FM ラジオが向いている。他にも有線ラジオなど、予算があれば、選択肢は増えてくる。

#### ■ 議長：栗山委員（苫小牧工業高等専門学校）

- やはり、意見を聞く限り、情報の受発信が今後の課題になるかと。

#### ■ 江尾委員（苫小牧視覚障がい者福祉協会）

- 東北地震の際には、事後処理が長期間に渡ったため、被災地に FM 局が複数できたようだ。

#### ■ 横山(未)委員（苫小牧市法人保育園協議会）

- ところで、苫小牧市では Facebook は実施していないのか。

■ 議長：栗山委員（苫小牧工業高等専門学校）

- 苫小牧市は Facebook を実施している。また、町内会でも Facebook を実施しているところは最近増えてきた。
- ただ、Facebook は、若い人向けで高齢者には難しい。反対に、町内会が Facebook を実施していることを若い人が知り、町内会に興味を持つなどの動きになればという期待はある。
- 町内会毎に SNS の活用法を考える必要があるが、町内会自体がない地域があるなど、様々な課題はある。

【以上】